

『文化庁移転記念～京都駅ビル祝の舞台～』について

2023年3月27日に文化庁が京都に移転することを記念して、3月21日(火・祝)に京都駅ビルにおいて、京都の伝統芸能・文化のイベントを実施します。イベントを通して、京都駅ビルをご利用いただいているお客様や地域の皆様と一緒に、文化庁の歓迎機運を醸成したいと思います。

■タイトル：文化庁移転記念～京都駅ビル祝の舞台～

■開催日時：2023年3月21日(火・祝) 13:30～15:45(予定)

※いけばな展示は、3月23日(木)～27日(月)



■会場：ステージイベント 京都駅ビル4F 室町小路広場 ※雨天時 1F 駅前広場
いけばな展示 京都駅ビル2F 西口広場

■主催：京都駅ビル開発株式会社

■共催：京都府、京都市

■後援：京都商工会議所

■実施内容：雅楽・能楽・祝舞・書道など、京都の伝統芸能の披露と、いけばなの展示

【ステージ演目】 『雅楽』市比賣神社ゆかりのいちひめ雅楽会の皆様による演奏。

『能楽』「能楽シテ方観世流」片山 九郎右衛門 氏による能の披露。

『祝舞』「京舞井上流」井上 安寿子 氏による京舞の披露。

『書道』墨道家 小筆 凰外 氏によるライブパフォーマンスを実施。

『ミニトークショー』片山 九郎右衛門 氏、井上 安寿子 氏と、京都府の西脇知事、京都市の門川市長を交えたトークショー

【いけばな展示】“祝”をテーマにしたいけばなの展示

出瓶：京都未生流・専慶流 協力：京都いけばな協会



片山 九郎右衛門氏



井上 安寿子氏



いちひめ雅楽会



小筆 凰外氏

■ステージ構成

時 間	内 容
13 :30	《オープニング》 ご挨拶 京都駅ビル開発 株)代表取締役社長 湊 和則 京都府知事 西脇 隆俊 京都市長 門川 大作
13 :45	雅 楽 出演/いちひめ雅楽会
14 :10	能楽と京舞の説明 出演/橋本 忠樹 能 楽 演目/日吉の一人翁 出演/シテ 片山 九郎右衛門 地謡 古橋 正邦 分林 道治 橋本 忠樹 京 舞 演目/八島 出演/立方 井上 安寿子 地歌 歌・三弦 菊寺 智子 箏 菊萌 文子
15 :05	ミニトークショー 出演/片山九郎右衛門 井上安寿子 西脇知事 門川市長
15 :30	書道パフォーマンス 出演/小筆 鳳外
15 :45	《クロージング》

※時間は、あくまで予定です。

能楽シテ方観世流 十世 片山 九郎右衛門

能楽シテ方観世流。一九六四年、九世片山九郎右衛門(人間国宝)の長男として京都府に生れる。祖母は京舞井上流四世家元井上八千代(人間国宝)、姉は五世家元井上八千代。幼少より父に師事し、長じて故八世観世鍔之丞に教えを受ける。一九七〇年「岩船」で初シテ。父と共に片山定期能楽会を主宰、全国各地で多数の公演に出演するほか、ヨーロッパ、アメリカなど海外公演にも積極的に参加している。また、薪能、ホール能など能楽堂以外での公演の制作・プロデュース、若年層のための能楽普及活動として、学校での能楽教室の開催、能の絵本『海女の珠とり』(「海士」)、『天狗の恩がえし』(「大会」)、『青葉の笛』(「敦盛」)の制作、映像を駆使した舞台制作、能舞台のCG化なども手掛けている。一九九七年京都府文化賞奨励賞、二〇〇三年京都市芸術新人賞、二〇〇四年文化庁芸術祭新人賞を受賞。現在、社団法人京都観世会理事、財団法人片山家能楽・京舞保存財団常務理事。

京舞井上流 井上安寿子

京舞井上流五世家元井上八千代の長女として京都に生まれる。平成 3 年、四世及び五世井上八千代に師事。平成 4 年「四世井上八千代米寿の会」にて初舞台(上方唄「七福神」)。平成 18 年井上流名取となる。平成 23 年京都造形芸術大学(現 京都芸術大学)卒業。平成 25 年井上安寿子主催の京舞公演〈葉々(ようよう)〉の会を発足。平成 30 年文化庁芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞、他受賞歴多数。

いちひめ雅楽会

「いちひめ雅楽会」は、雅楽を日本の伝統音楽として広めていくため、昭和 55 年(1980 年)、飛騨富久宮司を主催者として設立され、正しい伝承のために宮内庁式部職学部 岩波茂(いわなみしげる)氏より直接指導を受け、今日では幅広い年齢層で 200 名以上の会員が日々楽器や舞を練習に励んでいます。毎年定期的に雅楽の演奏会を開催し、現在は文化の交流を目指して、京都から世界に発信できる新文化へ取り組み、「MATOMA」のチームとして海外公演に挑戦中です

墨道家 小筆 凰外

5 歳より京都の著名な書道家 安井吾心師に、また 7 歳より世界的に活躍した書道家・現代美術家 田中心外師に基礎からアートまで徹底した指導を受ける。国内の書道展及び海外での EXHIBITION に多数出品するほか個展・ワークショップの開催、ロゴや筆文字の提供、また講演会やデモンストレーションを通じて心で観る、心を笑(さ)かせる、心を癒す書を伝え続ける。

一見絵画のように見える作風は、古典の臨書に始まり先人の運筆を学び、そこから新たにクリエイションされた唯一無二のオリジナリティー高い作品と絶賛され、本来の文字が持つ文字霊(もじだま)言葉が持つ言霊(ことだま)が最大限に引き出されているのも魅力のひとつである。

墨心書藝院書道教室を主宰し、子供が豊かな情操を培う場として、また多忙な大人がふと立ち止まる心のオアシスとして基礎から師範育成・日常書からアート作品まで幅広く指導する。

またフランスでの書の普及や指導にあたり、新聞・雑誌ほか国営ラジオ局での特番が組まれる等メディアにも多数取り上げられる。

京都末生流

京都末生流は、建都以来千有余年の歴史をもつ京都に生まれ育った、伝統のある流派として親しまれています。京都末生流いけばなは、四季おりふしに移ろう草木の姿に風流をみる自然観と、花と人とのふれあいから芽生える感性豊かな心を、美しい形に表す華麗で優雅な作風が好まれていて、若い世代から熟年層まで楽しく学ばれています。

専慶流

専慶流は江戸元禄期、京都で流祖・富春軒仙溪によって創始される。仙溪は花書「立華時世粧」八巻（一六八八）を著しているが、その独創的な作風と理論は、専慶流の思想と理念として代々受け継ぎ、四季の植物を通じて清楚で端正、品格を重んじます。豊かな創造と感性を求め、心のひろがり専慶流は目指しています。